

チューリップ。 四季だより



タルダ／*Tulipa tarda* (野生種)

花色は黄色に白、天山山脈原産。砺波
地方では4月中旬から下旬開花。極短
茎で一本の茎から2～3花咲く枝咲き。
野生種の中で県内で最も出荷量が多い。

1998. 春号
Vol.6

薬草の中の王者の花々

富山医科薬科大学名誉教授

森田 直賢

学校を卒業して、植物の成分研究に従事することになり、それには先ず植物を知ることが大事で、暇をみつけては山野を跋涉し、手当たり次第に植物を採集し、^{さくよう}腊葉標本を作って、一歩一歩植物を観察しながら、名前を覚え、科名を覚え、それから薬としての薬効を覚えなければならなかった。それらのことは、簡単に頭脳に刻まれるものでなく、常に気を配り、回を重ね、年数を重ねることによって一つ一つが頭に記憶されていった。それには何といっても興味を持つことが大切なことであることを知った。

そんなことをしながら研究のテーマとして日本の植物の成分のフラボノイドの分布の状況の研究をするようになった。大変な研究で約千二百種の植物の葉、花を採集し、抽出して、こつこつと年間を重ねて調査研究した結果、フラボノイドを含んでいない植物が十七種を数えることが出来、これからフラボノイドは植物の常成分であることがわかった。このような基礎的実験を終えて、多くの植物の名前を覚えることが出来た。その後時代の流れの、薬草の薬用

成分の研究に入って行つたわけである。即ち薬草の有効成分を抽出し、化学構造を決め、その成分の動物実験で薬効と一致するかの研究で、先ずシャクヤク（芍薬）の根の研究に着手した。

シャクヤクやボタンは歌にうたっているように全く王者の花で、その美しさを女性の美にたとえているわけである。即ち、「立てばシャクヤク座ればボタン、歩く姿はユリの花」のように美への象徴である。このシャクヤクもボタンも大事な薬用植物であり、その他クチナシの清楚な花（ヒメクチナシの花）などはみな美しく王者の花である。

シャクヤク（芍薬）

シャクヤクは中国北東部、シベリヤに自生し、中国では晋時代より観賞栽培をした。日本では足利時代（一四四五年）より栽培され、一六七三〜一六八〇年に多くの品種を生み出し、一六九四年頃には百有余種にも及び、さらに和漢三才図会（一七一三年）には五百有余種にも達したとされている。ヤマ

シャクヤクは野生品らしく純粹なものである。薬用には根を十〜十一月に採取し、天日で乾燥する。この根は鎮痛、鎮痙、筋肉（平滑筋）のケイレンなどにまた婦人の浄血（血のめぐりをよくする）などに根（カット品）三〜六グラムを水五百〜八百cc.で約四十分間煎じ、一日三回に分服する。根の成分研究は東大薬学部柴田承二教授らが一九七二年、根から新成分のペオニフロリン、オキシペオニフロリン、アルビフロリンなど抽出分離し化学構造を決めた。しかし森田らは一九八一〜一九八五年にわたり、柴田教授らの抽出出来な



▲シャクヤク



▲ヤマシャクヤク



▲芍薬根

かった新物質、即ちペオニフロリゲノン、ペオニラクトンA、B、Cの計四種を抽出し、芍薬根の筋肉弛緩作用物質であることを薬理実験で確認することが出来た。また漢方薬の芍薬甘草湯は急迫の腹痛や、筋肉痛、ケイレンなどに芍薬六グラム、甘草四グラムを水六百cc.で煎用する。

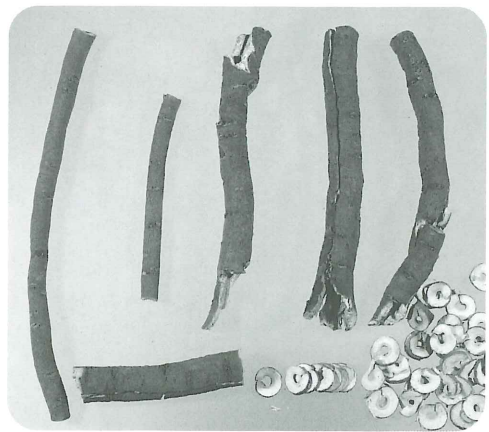
ボタン（牡丹）

ボタンはシャクヤクの草本と異なり、灌木で、中国原産で高さ一メートル内外、壮大な美事な花を開く。古く延喜の頃（八九七〜九三〇年）に薬用として用いられ、培養は元禄（一六八九年）の頃、最盛期で、園芸書には二百数十種の品種をあげている。明治中頃からシャクヤクの根による接木法で大きな進歩を果たした。十月に根を掘り、長さ約十センチに切り、やや乾燥後、木部を取り去り乾燥、管状、半管状のものを牡丹皮と称する。薬効は消炎、解熱、鎮痛、婦人浄血薬とし、牡丹皮六グラムを水五百ccで約四十分煎じ、一日三回に分服する。成分はペオノライド、ペオノサイド、ペオノールをまた芍薬の成分のペオニフロリンも含



▲ボタン

有する。ペオノールは芳香性があり、抗炎症作用が強い。



▲牡丹皮

クチナシ（山梔子）

クチナシは日本の南から中国、フィリピンに自生の常緑の灌木で高さ一〜三メートルになる。「口無し」で果実が不開裂果であるからという。

花はジャスミン様の花香を放ち、白花から次第に黄花に変る。果実は熟して紅黄色を呈す。実にはカロチン様のクロチンを含み、煎汁は飛鳥時代（五九二〜六七一年）より黄色染料として知られる。この煎汁は鉄で暗黄色、クローム明バンで黄色に染まり、歴史的な染料である。また食品の染色や木具染色にも応用される。薬用は果実を山梔子と（梔とは徳利に似る所から）称し、消炎、鎮静、黄疸、緩下などに用いる。成分は果実にヂエニピン、ヂエニボサイドを、

葉にはガーデノサイドを含む。花の香りは醋酸ベンジール、醋酸リナロールなどである。また全体が小形で分枝するものをコクチナシといい、庭園に栽植するが、二、三の変種がある。



▲ヒメクチナシ



▲クチナシ

略歴



もりた なおかた

一九二七年九月二十三日生まれ
一九四八年三月富山薬学専門学校卒業
一九六〇年八月薬学博士（東京大学）
一九六二年七月富山大学薬学部教授
一九七七年四月富山医科薬科大学薬学部教授
一九八四年十二月〜南米パラグアイへ出張、国際協力事業団支援により同国の薬草研究グループのリーダーとして派遣される。（その後四回出張）
一九八五年七月〜富山医科薬科大学薬学部付属薬用植物園長（二年間、昭和六十二年一月〜東京御所にてパラグアイ薬草の研究についてご進講申しあげる。
一九九三年四月〜富山医科薬科大学名誉教授
一九九五年四月〜富山県健康プラザ国際伝統医学センター専門委員会副委員長
一九九七年十一月富山県より伝統医学調査で南米パラグアイ、アマゾンへ二十二日間出張。
資格・表彰 薬剤師取得、薬学博士号（東京大学取得、北日本文化功労賞受賞、日本薬学会教育賞受賞
著書「薬用植物の採集と栽培」（主婦の友社一九七六年）「こやまの薬草」（北日本新聞社一九八七年、増版一版・二版）「こやまの山菜、きのこ」（北日本新聞社一九九一年）他

新品種を

育成するために

年号(西暦)

一九七三年

育成課程

交配してタネをとる



♀デメーター

×



♂T.アクミナータ

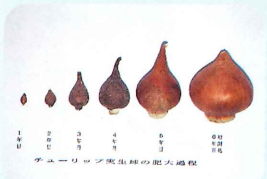


交配

タネをまいて球根を太らせる



種子



球根養成

一九八〇年

チューリップ育種 のあゆみ

大正七年、砺波の水野豊造氏によって始められたチューリップ球根栽培は、生産者の組織化へと発展しました。その後、昭和十一年に富山県立農事試験場園芸分場が設置され、そこでチューリップの育種試験が始まります。

終戦後、農林省チューリップ育種試験地が発足し、全国唯一のチューリップ育種研究機関として、戦前から

チューリップ育種グループ

「松下幸之助花の

万博記念賞」受賞

今年二月、富山県農業技術センター野菜花き試験場のチューリップ育種グループが第六回「松下幸之助花の万博記念賞」を受賞しました。この賞は平成二年大阪鶴見緑地公園において開催された「国際花と緑の博覧会」の「花と緑と人間生活の関わりをとらえ、二十一世紀に向けて潤いある豊かな社会を目指す」との

ら維持保存していた品種や、新しく輸入した品種を用いて、新品種育成への取り組みが本格的に開始されたのです。

昭和四十四年に「サクラ」等十九品種の発表を皮切りに、引き続き適切でかつ綿密な育種目標のもとに、現在までに六十品種を作出、そのうち二十一品種が農林登録されています。

現在、試験場育成品種の作付けは、県内の全チューリップ栽培面積の二十五パーセントを占めるまでになっています。

基本理念の実現に著しく貢献した業績や基礎的および応用的研究を顕彰するもので、すでに立派な業績をあげた人またはグループに「記念賞」、今後の成果に期待できる人またはグループに「記念奨励賞」が贈呈されます。

チューリップ育種グループは、終戦直後から約五十年の長きにわたり日本の風土に適したチューリップの育種に取り組み、多数の優れた品種を作出するとともに日本における栽培技術の確立に努め、今日の球根産業発展に大きく貢献したことが評価されました。

「記念賞」の受賞は地方公共団体研究グループとしては初めての事です。

初めて咲いたところで良い花を選ぶ

球根を増やしながらかや草姿の良否、球根の特性、促成栽培適性などを調査し選抜を進める

一九九〇年

富山県内で特性を調べる



ほ場試験



温室内試験



増殖



初開花

富山県以外の園芸試験場で特性を調べてもらう

一九九四年
一九九五年

新品種「夢紫」誕生



新品種誕生



チューリップ
遺伝資源センター

世界一を誇ります。
〔資料及び写真提供〕富山県農業技術センター野菜花き試験場



平成七年に新設された「チューリップ遺伝資源センター」は、世界各地から集めた野生種や園芸品種を材料（遺伝資源）として、新品種育成を行う品種開発の一大拠点として野菜花き試験場に併設された施設です。現在、二千品種以上が栽培されており、その規模は



▲チューリップ品種保存ほ場

オランダのチューリップ熱



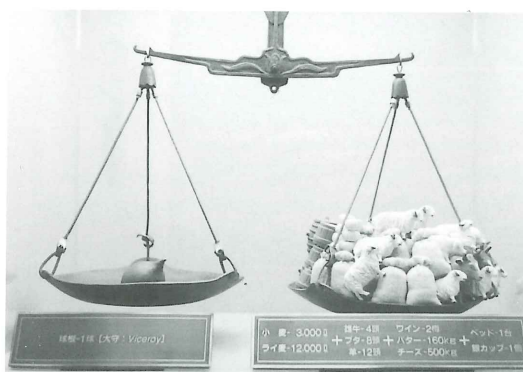
▲チューリップ取引の寓意 作:ヤン・ブリューゲル(子) 1640年頃 所蔵:フランス・ハルス美術館

チューリップ狂時代

十六世紀末にオランダに伝わったチューリップは、その後半世紀もたないうちに途方もない投機の対象となります。これが歴史上有名なチューリップ狂時代です。

一六〇二年に設立された東インド会社は、東西交易による莫大な富をオランダにもたらしました。裕福な人々の間では、大きな庭や農園を持ち、そこで珍しい植物を栽培することが流行しました。なかでもチューリップの人気は高く、ブロークンチューリップと呼ばれる斑入りの花の品種を観賞することが大流行しました。

そもそも斑入りの花はウィルス病にかかった株に咲きますが、当時の知識では病気であることがわかりませんでした。上流階級の人々は争って珍しい斑入りの花の球根に大金を投じました。そのため、チューリップ球根の値段は暴



▲チューリップ狂時代に“センパー・オーガスタ(常夏)”の次に高値で取引された品種“バイシェリイ(太守)”の球根1球と交換に取引された品々。

Viceroy(太守)▶

「ブランドマンドゥス・チューリップブック」より
1637年頃
所蔵:プリンセンホフ市立美術館



騰し、最盛期には球根一つのために小麦三千リットル、ライ麦一万二千リットル、太った雄牛四頭、太った豚八頭、太った羊十二頭、ワイン二樽、バター百六十キログラム、チーズ五百キログラム、ベッド一台、銀製カップ一個が支払われたという記

録も残っています。このような投機の対象となったのは発芽前の球根であり、実物を見たこともない球根で財産を築く者も現れました。

一六三四年に始まったこのブームも、一六三七年には突然価格が下落を始め、あつという間に去つたのでした。この期間は第一次チューリップ狂時代と呼ばれています。

その後、第一次程大きいものではありませんが、一七三三年頃にも第二次チューリップ狂時代がおこります。これらの数回にわたる「チューリップ狂時代」のおかげで、オランダでは新品種の開発や育成技術などが飛躍的に進歩し、現在のチューリップ王国の基礎ができたのでした。

アレクサンドル・デュマ 「黒いチューリップ」より

オランダ人の黒いチューリップへの情熱は、古くから並々ならぬものがありました。一八五〇年アレクサンドル・デュマの小説「黒いチューリップ」もまさにそれを題材として書かれたものでした。

その中身を紹介しますと：

オランダ南部の町ドルトレヒトに住んでいた若いチューリップ育種家のコルネリウス・ファン・ベルと、彼のチューリップを中心に物語りは展開します。

彼は、球根協会から賞金のかかっていた黒いチューリップの育種に成



▲開放龕に置かれた花瓶の花
作：アンブロジウス・ボスヒヤールト 1620年頃
所蔵：マウリッツハイス美術館

功します。あとはその黒いチューリップの球根を育て花を咲かせるだけとなった矢先、同じくチューリップの育種家で彼をねたみ続けていた隣人のボクステルの密告によって、反逆罪の汚名を着せられて逮捕されてしまいます。そうした困難にも負けず、牢番の娘、ローザの助けを借り、牢の中で黒いチューリップを咲かせることに成功します。しかし、またしても執拗に迫りかけてきたボクステルにその花を奪われてしまいます。



▲アレクサンドル・デュマ
「黒いチューリップ」創元推理文庫
宗 左近 訳

オレンジ公の粋な計らいにより、ファン・ベルはチューリップ祭の日、に賞金とローザの愛を手に入れます。この物語の進捗とともに、当時のチューリップが栽培される様子が詳細に描かれていますので、興味のあ



▲チューリップの花束
作：ハンス・ボロンヒール 1639年
所蔵：アムステルダム国立美術館

チューリップ四季彩館
からのお知らせ

'98となみチューリップフェア 【4月24日(金)～5月5日(祝)】

.....館内催し物.....

★チューリップホール「フラワーショー」

“春のオーロラ”

まるで光の中に迷い込んでしまった
よう...
キラキラ光るオブジェをスペース
いっぱいに並べ、魅力的な春の花と
エキゾチックな光の演出をお楽しみ
下さい。



★チューリップテラス

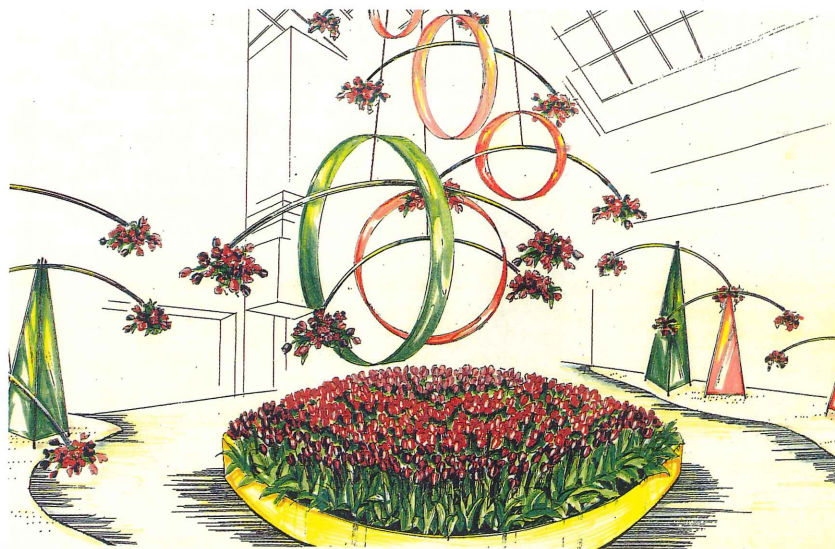
“かなでる 春”

やさしく光が差し込むテラスに、
春の訪れを心待ちにしていた花々が
嬉しそうに音楽を奏でています。光に
反射して輝くモビール、ゆったりと
流れる美しいときを満喫して下さい。

★2階セミナールーム パンフラワー展

“ねんどで作る贈り物”

パン粘土でつくる繊細で芸術的な
造花工藝をご覧下さい。



(財)砺波市花と緑の財団
〒九三九一-三三八一
富山県砺波市中村一〇〇一
☎ 〇七六三一三三三七七
FAX 〇七六三一三三三〇九〇


チューリップ四季彩館
TONAMI
TULIP
GALLERY

その他、香りのチューリップを集めたチューリップ
スクエア、チューリップの歴史や文化、球根の仕組み
などを楽しみながら学べるチューリップミュージアム
も併せてご覧ください。

*チューリップフェア期間中は、チューリップ四季彩館
単独でのご入場はできません。